

福島・議会諮問会議

常磐井会長が辞任

定数と歳費で町と溝

【福島】町議会のあり方について協議する議長の諮問機関「議会諮問会議」の常磐井武典会長は22日、溝部幸基議長に委員辞任届を提出し受理された。常磐井氏は同日会見し、辞任の理由について「議員の定数と歳費のあり方について、町民に早く情報を伝え意見を聞くべきだとの私の意見が受け入れられなかった」と述べた。

(久田徳二)

「増額なら町民の意見を」

諮問会議は今年6月、議長委嘱の町民ら5人で発足。来年8月予定の町議選時の議員

定数と歳費について、今年中の答申を目標に審議している。今月4日の第4回会

合では、歳費を現行より増額するという3案

を議会事務局が提案。3案の増額幅は①24%②36%③152%だった。常磐井会長は7月の

会合で「アンケートなどの手法で、すぐにも町民の意見を直接聞くべきだ」と主張。その後の会合でも同趣旨を訴えたが、議会事務局は「町民意見の聴取は、諮問会議が方向性を示した後にしたい」としていた。

常磐井氏は会見で「今のご時世で、仮に『歳費増額。定数維持』を求めるなら、なおさら早く町民に問うべきだ。専門家もいる諮問会議の答申後では町民が異論を唱えにくい」

と話した。石堂一志議会事務局長は「辞任は残念だ。アンケートは悪くないが、結果をどう受け止めるかの想定が必要。今は、答申後の町民懇談会開催を検討している」と話している。